

## 新春法話 「一度の人生 素直で生きれたら」

明けましておめでとうございます。

令和七年を迎え、ようこそお地蔵さんのお寺正光寺初詣にお参りくださいました。

近年私たちの取り巻く社会を表す言葉として、「少子高齢化」「人口減少」「人出不足」「闇バイト」「不登校」「温暖化」などがあり、この先どうなるのかといった不安が募る日々は残念ながら今年も続くことかと思えます。インターネットとスマホの普及により、幼児からお年寄りまで気軽に種々の情報を得ることができ、不安に煽られることなく正しい情報のもと子供たちが将来に希望が持てる一年になってほしいと切に願いたいところでもあります。

さて今年の新春法話のタイトルは「一度の人生、素直で生きれたら」です。皆さんは自分の心に正直に向きあって、日ごろより素直な気持ちを伝えていきますか。変に相手を慮ってやせ我慢したり、恥ずかしくて嘘をついたりあまのじゃくになったり、あるいは相手から馬鹿にされたくないことから虚勢や見栄を張ったりしていませんか。我慢、嘘、虚勢、見栄などは決して自分をよくするものとはならずかえって自分を惨めにさせるだけのことと分かっているのですが、他人の目や評価を気にするあまり素直になれない人がこの世の中には大勢いるのではないのでしょうか。

人生は一度限りです。後戻りはできません。生まれて年を重ねていきやがて死を迎えるのが命あるものの一生です。素直になれず後悔して虚しく一生を送るとしたら不幸せそのものです。素直に生きるとは、感じたこと、思ったことを他人に臆せず伝えていくことです。ありがたいなあと思ったら「ありがとう」と、悪いことをしたなあと思ったら「ごめんなさい」と素直に声に出してみると、人間関係で悩むことは少ないことでしょう。それから好きなことがあってやりたいと思うならば、年齢や体力など何かを理由にしてあきらめることせず、素直にやってみることで。やって駄目ならあきらめもつくでしょうが、やりもせずあきらめたのでは後悔の積み重ねとなることでしょう。また何かをやることにしても素直に自分の力に限界や無理を感じるならば身を引くことも大事です。苦しみや悩みを増やさずにすむのではないのでしょうか。

ところで昨年の流行歌にこっちのけんときんの「はいよろこんで」がありました。この歌はギリギリダンスで有名になった歌ですが、この歌はすべての生きづらい人に向けた歌で、多くの人に共感を得たといわれています。頼まれたら断りにくさを感じ、自分よりも相手への気遣いを優先し「はいよろこんで」と言って良い人を演じてしまい、結果「うつ病」など心を病んでしまう若者への応援歌となっっています。嫌なものは嫌、できないことを無理してまではやらないと自分の心にある素直な気持ちをしっかりと相手に伝えることの大切さを教えてくれる歌です。歌謡曲ではありますが今のこの世に警鐘を鳴らすメッセージが込められていることを知って、なるほどと関心を持ちました。余裕があれば是非聞いて、歌詞の意味を知っていただければと思います。

「素直で生きれたら」 身近な関係からでも構いませんから素直な自分をだしてみてはどうでしょうか。弱い姿、悩んでいる姿、喜んでいる姿、怒っている姿、病んでいる姿など、隠すことなく相手に分かってもらえれば、必ず共感してくれるはず。共感を得ることは生きる自信とつながり、一度の人生において大いなる幸せへと導いてくれる手掛かりになると思います。

ご本尊お地蔵さまにも素直な気持ちで願いを伝えていただければ、ご本尊様から大いなるご利益が授かることでしょう。皆様の幸多き年になることを願い、新春法話とさせていただきます。

令和七年 乙巳 元日